



瑞穂の四季

発行：三木市高齢者大学大学院自治会
 発行責任者：自治会会長 渡邊 昶彦
 編集委員：板東和己 勝丸桂二郎
 発行日：令和2年3月3日
 自治会便り 第49号

第12期生の卒業にあたって



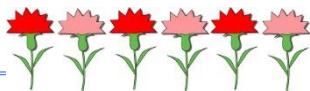
4月から皆様の活動を拝見させていただきましたが、品格と節度をわきまえられ授業やクラブ活動等への取り組み方も大変真面目で真剣で熱心だと感じた1年間でした。学期毎の館外講座やシャッフルボードが頭に浮かびます。

1年生と2年生が一緒になって和気藹々でとても楽しく、皆さんの仲が良かったことも印象に残っております。「卒業しても生涯の友としてお付き合いしたい」「卒業ロスになりそう」等の声も聞こえてきました。大変嬉しいことです。

竹には節があり節によってしなやかに強く成長します。卒業も一つの節であり「よし!」と気合いを入れてまた歩みを進める節です。その積み重ねが心豊かな人生を送る秘訣なのかもしれません。

大学院での学びや経験を活かし自分のために仲間のために地域発展のために元気で活躍されますことを期待しております。ご卒業おめでとうございます。

学 長 井上 京子



館外研修 「ゴッホ展鑑賞と新開地喜楽館へ」

2月4日まなびの郷を冬晴れの中いざ目的地へ。今回の館外研修は、2年生にとって最後の授業です。初めに兵庫県立美術館へ、「ゴッホ展」の鑑賞です。ゴッホと言えば、直ぐにひまわりの絵を想像しますが、今回はゴッホが絵を描くようになった過程が解りやすく表現されていました。自ら死を選んだ生涯までの10年間は、影響を受けた画家たちの絵と弟（デオドルス）へのゴッホの手紙によって、ゴッホの人生の移り変わってゆく様が、手に取るように理解できました。圧巻は、亡くなる1年前に描かれた（糸杉）です。天に昇ってゆくかのような迫力で描かれていました。それは、（ひまわり）を描いていたタッチに似ています。空腹を満たした午後は、一転して新開地喜楽館へ。触れ太鼓に誘われて館内へ、特等席に着席し、テレビでよく見る舞台を目の当たりにして心もウキウキ。あまり知らない落語家達でしたが、話芸も上手で、久しぶりに大声で笑いました。幕間にKANAさんのフラフープ芸は見ごたえがありました。中身の濃い剛と柔の研修に大満足の1日でした。これで終わりかと思うと寂しい気持ちです。



2年生 藤原 秋子



大学院の思い出

「卒業にあたって」



あっという間の2年間でした。卒業式を迎えるに当たり、多少の名残惜しさを覚えています。大変楽しい学生生活を過ごす事ができ皆様有難うございました。

学習では、午前・午後の講義とも、1・2年合同で受講することで一体感が醸成され、大変良かったと感じています。特に印象に残ったのは、館外学習でした。1学期は、姫路書写山の植物の学習と、円教寺参拝。2学期は、緑が丘中学校の授業参観と大山寺参拝。3学期は、県立美術館「ゴッホ展」見学と、新開地の喜楽館です。それぞれに、工夫を凝らした内容で、日常では味わえない興味深い学習ができました。感謝です。もう一つは、大学院の特徴的学習である「地域活動」講座が印象的でした。当初はボランティア色を感じる活動でしたが、回を重ねる度に、皆に喜ばれる活動との認識が生まれ、自負を感じるようになった貴重な体験でした。一方、自治会活動では、年2回の「シャッフルボード大会と懇親会」及び「地域交流グラウンドゴルフ大会」を無事終える事ができたこと、皆様のご協力に感謝しています。

高大生の皆様、大勢が揃って大学院へ入学する事で力が出ます。ぜひ入学を！！

自治会長 渡邊 昶彦



地域活動発表会を終えて

令和元年度、三木市高齢者大学大学院の地域活動講座発表会が、2月20日（木）に開催されました。地域福祉、街づくり、環境、障害者福祉、子育て支援等の活動について8グループが発表を行いました。

私たちのグループ「りゅうぐう」も、三木市が提唱している「日本一美しいまち三木」の街づくりに貢献したいとの思いから、昨年7月から企画書を作成し、活動を開始しました。

約7か月間、地域の子ども達や高齢者が利用する「青山中央公園」を中心に、周辺道路等の清掃活動を行うとともに、地域の高齢者の方々とのグラウンドゴルフ練習、老人会主催の地域交流大会への協力等の活動について発表しました。

すべてのグループが、活動を通じて少しでも自分たちが居住している三木の街に役に立ちたい、との思いがあり、やりがいのある素晴らしい活動を行っていると感じました。



1年生 西畑 種嗣